

第5問

米菓を製造・販売する熊本製菓では、これまで全部原価計算による損益計算書のみを作成してきたが、製品Aの月間利益計画を作成するため、直接原価計算による損益計算書を作成することとした。製品Aの販売価格は1 kg 当たり 2,000 円を予定している。次の【資料】にもとづいて、その下の【会話文】の（ア）に入るもっとも適切な語を選んで○で囲み、また、（①）～（⑤）に入る金額を計算しなさい。

【資料】

(1) 製品A 1 kg 当たり全部製造原価

直接材料費 800 円/kg 変動加工費 280 円/kg

固定加工費 月額 1,176,000 円（全部原価計算では月間生産量をもとに配賦率を算定する）

(2) 販売費及び一般管理費

変動販売費 160 円/kg

固定販売費及び一般管理費 月額 632,800 円

(3) 月間生産・販売計画（仕掛品は存在しない）

月初在庫量 0 kg 月間販売量 2,800 kg

月間生産量 2,800 kg 月末在庫量 0 kg

【会話文】

社長：全部原価計算と違って、直接原価計算では、売上高から変動費を差し引いて（ア）利益が出てくるわけだね。

経理部長：そうです。月間生産・販売量を 2,800 kg とする現在の計画では、月間（ア）利益は（①）円になります。仮に、月間生産・販売量を 3,500 kg とすると、月間（ア）利益は（②）円になります。

社長：なるほど。（ア）利益は売上高に比例して変化するわけだね。

経理部長：そうです。次に、（ア）利益から固定費を差し引いて営業利益を計算します。月間生産・販売量を 2,800 kg とする現在の計画では、月間営業利益は（③）円になります。

社長：月間営業利益がマイナスにならないようにするためには、月間売上高はいくら必要になるんだ？

経理部長：損益分岐点ですね。損益分岐点の月間売上高は（④）円になります。

社長：そうか。ところで、直接原価計算の営業利益は全部原価計算の営業利益と同じ金額になるんだよね。

経理部長：現在の計画ではそうですが、生産量と販売量が一致しないときは同じ金額にはなりません。仮に、月間生産量だけを 3,500 kg に増やし、月間販売量は 2,800 kg のまま変わらないとします。直接原価計算では、月間営業利益は（③）円ですが、全部原価計算では、月間営業利益は（⑤）円になります。

社長：販売量が変わらないのに、生産量だけを増やして営業利益が増えるのはおかしいね。

経理部長：そのとおりです。ですから直接原価計算のほうが利益計画に適しているといえるでしょう。

対策模擬試験 答案用紙 2 級⑤ 工業簿記

採点欄	
第5問	

第5問

ア	売上総	・	貢献	・	経常
①					
②					
③					
④					
⑤					

第5問 (12点)

ア	売上総	・	貢献	・	経	常
①			2,128,000			
②			2,660,000			
③			319,200			
④			4,760,000			
⑤			554,400			

各2点 合計12点

解説

Step 1 直接原価計算による各利益の計算

1. 月間生産・販売量を2,800 kgとする場合の損益計算書 (直接原価計算)

売上高	5,600,000円 (= @2,000円 × 2,800 kg)
変動売上原価	3,024,000円 (= @1,080円 × 2,800 kg)
変動製造マージン	2,576,000円
変動販売費	448,000円 (= @160円 × 2,800 kg)
貢献利益	2,128,000円 (= @760円 × 2,800 kg) ... ①
固定加工費	1,176,000円
固定販売費及び一般管理費	632,800円
営業利益	319,200円 ... ③

上記の場合の損益分岐点における売上高の算定

貢献利益率 : 2,128,000円 ÷ 5,600,000円 = 0.38 (38%)
 固定費 : 1,176,000円 + 632,800円 = 1,808,800円
 損益分岐点における売上高 : 1,808,800円 ÷ 0.38 = 4,760,000円 ... ④

構成比	
(100%) 売上高	4,760,000 ←
(62%) 変動費	1,808,800 ←
(38%) 貢献利益	1,808,800 ←
固定費	1,808,800
営業利益	0

÷ 0.38 (貢献利益率)

2. 月間生産・販売量を3,500 kgとする場合の損益計算書 (直接原価計算)

売上高	7,000,000円 (= @2,000円 × 3,500 kg)
変動売上原価	3,780,000円 (= @1,080円 × 3,500 kg)
変動製造マージン	3,220,000円
変動販売費	560,000円 (= @160円 × 3,500 kg)
貢献利益	2,660,000円 (= @760円 × 3,500 kg) ... ②
固定加工費	1,176,000円
固定販売費及び一般管理費	632,800円
営業利益	851,200円

Point

変動費、貢献利益は販売数量 (= 売上高) に比例する。

変動売上原価

= 直接材料費 + 変動加工費

変動費

= 変動売上原価 + 変動販売費

固定費

= 固定加工費 + 固定販売費及び一般管理費

貢献利益

= 固定費 + 営業利益

貢献利益率

= 貢献利益 ÷ 売上高

損益分岐点は営業利益がゼロとなる。

売上高の38%が貢献利益となるので、割り戻すことにより売上高を計算する。

Step 2 直接原価計算と全部原価計算による営業利益の比較

1. 月間生産3,500 kg・販売量を2,800 kgとする場合の損益計算書（直接原価計算）

（Step 1 で計算済み）

売上高	5,600,000円	(=@2,000円×2,800 kg)	
変動売上原価	3,024,000円	(=@1,080円×2,800 kg)	
変動製造マージン	2,576,000円		
変動販売費	448,000円	(=@160円×2,800 kg)	
貢献利益	2,128,000円	(=@760円×2,800 kg)	… ①
固定加工費	1,176,000円		
固定販売費及び一般管理費	632,800円		
営業利益	319,200円		… ③

Point

売上高は、全部原価計算でも直接原価計算でも変わらない。

直接原価計算では、固定加工費は製品の原価には含まれず、当月発生した固定加工費の全額が費用として計上される。
=販売量が増えると営業利益が増える。

期首・期末の仕掛品は存在しないので、当月の固定加工費は、完成した製品の原価にすべて含まれている。

全部原価計算では、予定配賦された固定加工費が売上原価に含まれる。売上原価は「生産量」ではなく、「販売量」で計算することに注意する。

販売費 = 変動販売費 + 固定販売費
変動販売費は当期販売量にもとづき計算する。

営業利益（全部原価計算） = 売上総利益 - 販売費及び一般管理費

全部原価計算の損益計算書では、直接原価計算の損益計算書に比べて、固定加工費の金額が、月末製品に予定配賦された金額の分小さくなるため、その分営業利益が大きくなる。

2. 月間生産3,500 kg・販売量を2,800 kgとする場合の損益計算書（全部原価計算）

売上高	5,600,000円	(=@2,000円×2,800 kg)
売上原価	3,964,800円	(=@1,416円×2,800 kg)
売上総利益	1,635,200円	
変動販売費	448,000円	(=@160円×2,800 kg)
固定販売費及び一般管理費	632,800円	
営業利益	554,400円	… ⑤

	1 kgあたり 全部製造原価	製品販売量	売上原価の内訳
直接材料費	800円	× 2,800 kg	= 2,240,000円
変動加工費	280円	× 2,800 kg	= 784,000円
固定加工費	336円*2	× 2,800 kg	= 940,800円*3
	1,416円*4		3,964,800円*1

*1 問題[資料](1) 固定加工費 月額より

*2 1,176,000円÷3,500 kg=@336円（1 kgあたりの固定加工費）

*3 336円×2,800 kg=940,800円（売上原価に含まれる固定加工費）

*4 800円+280円+336円=1,416円（1 kgあたりの全部製造原価）

製品（固定加工費）		
月初在庫量	0 kg	940,800円 ←
当月生産量	3,500 kg	
	月末在庫量	235,200円
固定加工費*1		
		1,176,000円

*1 期首・期末の仕掛品は存在しないので、当月の固定加工費の全額が当月生産量に含まれている。